(明治[illegible]十一年十二月三十日第三種郵便物認可)　([illegible])　日曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年七月十四日　(水曜日)　第百六十號　(一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

國体を傷ふ勿れ（上）

牧雲子投

頃日京城孤兒院の催しに係る慈善演藝會に臨席したと云ふ一知人、偶然予が草廬を敲いて、其演論の要旨なりとて語るを聞くに我が日本國の神代に於ける、素盞雄尊は韓國江原道より八雲立つ、出雲の國に、推し渡られたのでありとか云ひ、種々の考證を與へて我が大日本國を開拓したるは、韓人であるやに說明する所が有つたとか云ひ、倚ほ自分は先日江原道方面に旅行したのであるが、某地に於て二三の古蹟と云ふを見たので、更に興味を覺へたとて光景の一斑を語られたり、予は反問するに其辨士は韓人なりや否やを以てするに曰く日本人也。

予は日本人の口頭より此の言ありと聞きて痛く耳を汚したのである。日韓兩國の間に於ける、關係深きを以て相親睦にし、可憐の孤兒を救濟するの、打ち捨て置くべからざるを、強く世人の情感に訟へん手段であらふ、然り今日兩國の關係上、政事的方面よりしても、宗教的方面よりしても、勿論打ち捨て置くべきとではない、予は竊かに其成果を祈るのである、獨り我が大日本の國祖が韓國を發祥の地と認定して、公會席上然かも多くの韓人の前で、公言せりと云ふに至つては、敢て一言するの要ありと信ずのである。

曾て久米某なる者の著書にも古代歷史研究の結果、韓國東海岸の某々の地、及南濟の某々の地は、我が日本の國初の神代に於ける、出現の地とか又は天の岩戶と云ひ、乃至はヨミの國と云ひ、何地何處であると樣に、配置してあるとか聞く、斯くして我が大日本の國體を塗抹するは、誠に恐懼の次第であると思ふ、其研究の結果が、必ず事實であるかどうだか、容易に斷定は出來まい、要するに想像の範圍を出でぬであらふ、論者も說者も俱に確かな證據が有るでもあらふが、予は首肯するに一寸躊躇するのである、而して其れ程我が日本國の命は、新らしく且つ平凡な國であらふか。

予は幼時故事記の一部分をのぞき見しが、誠に讀辛い書物で遂に讀下せなかつた、神代の御事ども先輩より聞き及び、神聖にして尊嚴なる、然かも金甌無缺の、目出度き國体を有して、聯綿として、一糸亂れざる所の、萬國無比の神統を戴て居るとを知るのみである。

勿論往古は筆冊はないので、故事紀等の國史さて、皆後世に出來たのであるが、神代のとは吾等凡眼の、能く窺ふ所でない、故に研究の事項を以て、一家の私說として、單に研究に止むとならば、敢て不可もなからふが、想像的に附會して、歷史家ブリ研究家ブリ公々然として公會席上に演說し著述するは、考へものであらふ、予は此「ブリ」と云のが、最大の禁物である。基督教の天にまします「エホバ」の神を尊信する外、君父なしとするものに對して國體に副はぬ事を非議するものも有つた樣だが世界的數理より云ふ時は、差閊なきが如しと思ふ、唯錯り會するものがある、开は其容器の少さきが故であつて、鎮まるものゝ卵大に居る。

明治二十二三年頃であつた、森某なる者、大廟の御簾をステッキを以て揭げたとて、不敬となし、之が成敗をイキマキたる者も有つたが、此の根本破壞的著書に演說に對して一言の批難がないのは、不明なる予は一種不思議の感を懷くものである。譬へば朝霧の中を行くが如きで知らぬ間に着衣が濕める樣なもので、浸潤の勢微なるが如きも實に畏るべきである。

文苑

●白砂青松　長汀生

朝鮮統監子爵曾禰荒助閣下、朝鮮の夏の暑さは別のもの日中百度の苦熱敢て珍とするに足らざるなり、而も端唄、都々逸、長唄の娛樂

▲講談豫告▼

引き續き江湖の喝采を博しつゝある講談「佐倉宗吾」は名殘り惜しくも茲數日の間に大團圓を告げんとす、次で之れに代るべき講談は「中山大納言」にして講演者は桃川燕玉なり

演題既に趣向に富む而も講演者は東都講談界の老手たり、詞調句辭恰かも面の當り聞くの思ひあるべし乞ふ刮目して俟たれん事を

▲講談豫告▼

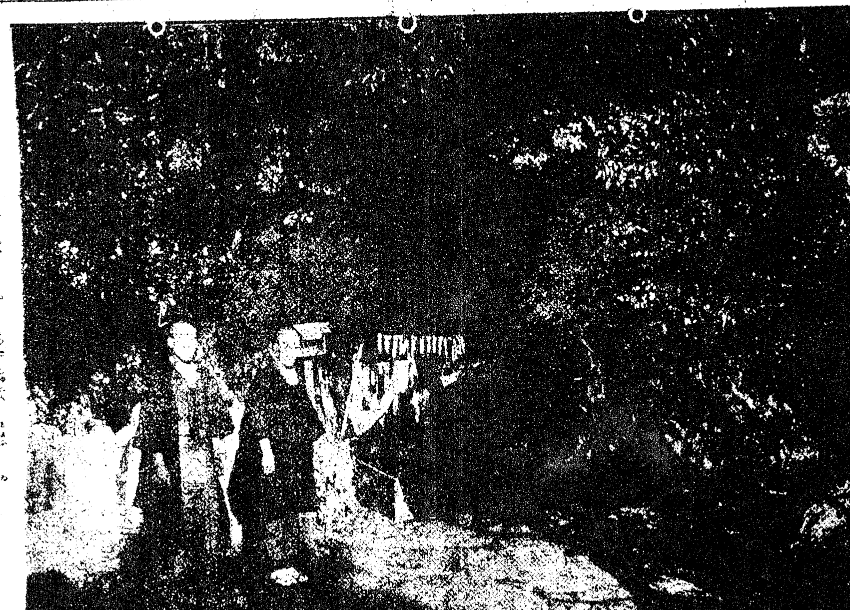
何れも以て夏を銷するの材料に價せざるには非ずと雖も要するに之等の銷夏法は消極的にして積極的には非ざるなり、今や天帝威を逞うして瓦礫を爍き廊廷の官、官漸く務を休まんとす、此の時に當り閣下須らく身を白砂青松の邊に委し悠々自適生氣を養はれんには新涼郊に入つて心身快く南山々麓の光景轉た落寞たるの頃は是れ閣下の活動時季に入るの時に非ずや

佐倉宗吾



（百卅一）　眞龍齋貞水講演

其内に此方の妻は、宗五郎の妻れ美禰が磔臺で槍を通ふされた時の苦みと些とも違はぬ姿で立上り　妻「アヽ苦しや汝河內、河內に於ては親の意見を承繼ぎ、能くも改心を致さねで、多くの民を苦める、汝この怨みを晴さで置くべきか、エー」と云ふのを見ると、アヽ恐ろしき事、この時ばかりは有繋の河內に於きましても　河「何卒改心をする御宥し下され」とは云つて見たがなか〳〵宥す所でない忽ちの間に妻子は見る前に非命の最後を遂げました　河「アヽ情けなや斯う相成るからは臨でも斬つて死う」と思ふと、手の痛みのために、手が利かなくなるから、それさいも叶はず、苦んで居る内に宗吾[illegible]を現はし　宗「汝に於ては飽まで百姓を苦むる故、汝の命を申し受け、汝の家を絕すから、覺期を致せ」と云ふかと思ふと、忽ちの間に近づいて來ましたから、アッと歎いて氣絶いたす、家に仕へて居る者は、殘らず此有樣を見て驚いて逃出す處よ堀田河內守は野仆死同樣の苦みにて死んで仕舞ましたで殘らず死絕ねましたから、夫で堀田玄蕃頭の家は氣の毒ながら殿樣へ申し上げて、一時家名斷絕と云ふ事になりました、畢竟これは宗吾殿の怨みでございます、サアそれからと云ふものは、宗吾殿御處刑の前から掛り合ひました、惡い役人の所へ今日は彼方へ御出になつた、昨夕は何處だと云ふやうに成りまして、佐倉城中の者は、夜分になると外へ出る者もなく唯將名を唱へまして、宗吾殿御夫婦の戒名を飾つて回向をするさ云ふ有樣、皆な戰慄い上つて居る、其位の事だから、江戸表に於ても、兹に改心でもすると思ひきや未だ〳〵御改心の模樣なく、此事が江戸表へ知れまするけれども冷然笑を遊ばして「何の宗吾如き者が」と云つて御心にも留めず、平氣で御居あそばすと、恰度八月十五夜の事でございます縱令六萬石は削られても前殿樣御身代を潰ねて、御內福であるから今夜は例年の通り多くの者を對手に月觀の御酒宴、月は銀盤を磨いだ如く光り輝き眞晝のやうであります、御庭の草に宿つて居る虫の音も玉の如くに響き、清涼たる風は折々御殿へ吹入れる彼方此方へ絹張に銀製の御燭臺御雪洞の內へ燈火を照し、いと御心快げに御酒宴を催して居らせられたる、夜の彼是四つ半頃ほひに、不圖殿樣が御氣が注いて　殿「コレよ。○「ハアー　殿「あの向うの庭に立つて居るは何人ちや　○「ハ、ハア、何處に居りまするか　殿「アレ見よ、彼處に居る、あれば何人ちや　○「エー、何人も居りませぬでございます　殿「ナニ、居らぬことは無い、あれが其方共に見えぬか　○「何處でございまする　殿「アレ、彼處に賤しき者が居るではないか」と仰つしやるが、サア一同何處と見ても何の姿も見えない、其內何處からか猫が不圖飛出して、バリ〳〵ッと御障子に掻き上りました勢ひに、エーッと云ふと御殿の人々が總立ちになつて追出さうとしますと、ブツと來りたる風に、パタ〳〵ッと御燈光が消えた、實に斯樣な御話をすることは、開明の今日に如何かは知りませぬが眞實での時は殿樣は御刀に御手を御掛け遊ばして　殿「アレ、アレ、宗吾が現はれたりッ」と憤然御立ち上りになつて、鞘を拂つてスポツ途端にドウーンと倒れた音がしたから、アッと驚いた一同の者、燈火を照らして見れば斯は如何に、御女中の光江と云ふ者が其處へ御手討になつて居ります「アレ光江殿が」と云ふと御殿の騷ぎ容易ならず、正氣になつた殿樣は斯は不憫なる事を致したと思召し、奇異の思ひを遊ばして「さては宗五郎奴が予の家へ怨みをなしたるか無念なり」と仰せられ、サア其夜は御酒宴で夜を御徹しになりました。



彌頭寺內の首洗池

京城新報

伊藤公を送る

日露の大戰により東洋に於ける帝國の位置確然として定り、稍もすれば極東の禍亂を醸生したる韓半島は帝國の保護國となり、茲に東洋平和の礎を築くに至れり、而して此保護統治に膺る最初の統監は其任頗る重く殊に帝國は未だ曾て保護政治の經驗なし此際に於て統監の職を奉じて能く其端緒を開き、保護國民をして帝國の保護政治に信頼せしむると共に帝國の大陸經營を進展するは甚だ至難の事たる也、帝國の政治家中此最初の難局に當りて能く中外の信望を博し得るもの幾人かある、伊藤公の忠誠なる其齢の高きにも拘らず自ら進で此難局に衝られたり、當時何人も公が國家を思ふの誠意と勇氣とに感激せざるものなかりき、爾來今日に至るまで殆ど四年に亘り孜々として保護政治の爲に盡瘁せらる、今や其大謨の端緒漸く成れるを以て任を後進に讓られたり、在任四年中に公の施設斷行したるもの素より尠からずと雖も、世人が公の重望に對して期待したる所の大なりしを以て聊か失望せしめたるものなきに非ず、然れども第二協約と云ひ、宮中の廓淸と云ひ、總て之れ公の重望と偉大なる人格とによりて圓滿に事を了したる也、殊に列國が帝國の保護政治に對して常に好意の態度を取られたるは全く伊藤公の信望に據由せずんばあらず、公は今や韓京を去て歸朝せられんとす、余輩は保護政治に於て公と政見を異にしたるに拘らず、公の崇高なる人格に對して追慕の念に堪へず、公は去る十二日開催せられたる京龍民團及漢城府民の送迎會に臨で在任中の所感を述べらる、眞摯誠意の情語句に顯はる、曰く「個人々々に就て省れば或は不滿足の點なきにあらざりしと諒察するも韓國の如き地に臨み日本を代表し之を監視し之を誘導し此成蹟を日韓兩國民の上に及ぼすは余にとりて頗る至難の事業たり」云々と、眞に然り日韓兩國民に滿足を與ることは最も至難の業たる也、亦曰く「歸朝の上至尊の傍に在て我職分を盡す上に就て微力の及ぶ限り韓國民及在韓邦人の利益を眼中より離さず」云々と、何ぞ夫れ情緒の懇篤なるや、是れ公の崇高なる人格の發露たり、何人か公の此語に對して敬意を拂はざるものあらむ、曾禰統監は述べて曰く「望むべきは人々が理屈に走らず仕事の出來ざることは口に出さず言ひたる事は必ず實行するを要す」云々と、是れ所謂不言實行なるが、韓人は由來理屈に走りて實行力に乏し、眞に韓人に對する頂門の一針也二世統監たる曾禰子不言實行を期す、一世統監輪廓を築き二世統監實質の施設に當る庶幾くは大なる誤りなからんか、余輩聊所感を記して謹で伊藤公を送る、海陸共に安全にして恙なく歸朝せられん事を禱る。

●英國艦隊仁川入港　英國東洋艦隊司令

伯林電報

▲新宰相任命期　獨逸新宰相は十四日任命せらるべし（十二日東京經由）

北京電報

▲鐵道委員病氣　吉長鐵道委員翟廬華氏は病氣にて十日間の休暇を許可せられたるが近日又々奉天へ赴くべしと（十三日午前東京經由）

東京電報

▲武官長の差遣　滿洲守備隊慰問使として差遣さるべき中村侍從武官長は來る十六日新橋出發に決定せり

▲答禮大師の神戸發　清國答禮大使載振殿下は今朝神戸より汽船にて歸國の途に就かれたるが見送り盛なりし

▲日清勞働者淘汰　米國政府はパナマ運河經費節減の爲め日本及支那の勞働者に對し淘汰を行ふべし（以上十三日發）

雜報

●新内閣成立説

李完用辭職し朴齊純首相の下に新内閣組織さるべしとの風説一昨夜來頻りに行はれ居れるが本稿締切迄には未だ發表を見ず尚之と同時に各部の廢合行はるべしとの説あり

●東拓訴訟判決

東洋拓殖株式會社に對する總會決議無效宣言請求の訴訟は京城理事廳裁判所に於て被告會社勝訴の判決言渡ありたり右に付原告は不日法務院に上告すべしと云ふ

●觀察使會議（第二日）

十二日の觀察使會議に於て朴内相、岡次官及澤田地方局長の訓示ありたることは昨紙所載したる處なるが朴内相の訓示要項は（一）地方人民をして日韓の關係を明瞭に知得せしめ以て中央政府施政の便を計り兼て屢地方を巡視して説諭を加へ蒙を啓くこと（二）教育を奬勵し勞働心を喚起して地方民心の開發を圖ること（三）産業を興起し慈善事業を圖り以て地方行政の刷新を圖り又地方費法の實施に就て説明訓示したる事等なるが十三日の同會議は澤田地方局長議長席に着き管内行政事項に就き打合會を爲したりと云ふ

●新舊統監招待會　十三日午前十一時韓國元老連は新舊統監を齋洞翠雲亭に招待したるも曾禰統監は前夜來の恙にて缺席し伊藤公のみ出席し一場の演説をなしたりと

●曾禰統監の引籠　曾禰統監は十二日夜ソンタク邸に於ける顧事團の送迎會に臨席中恙ありて席を外づし歸邸したるが今尚は引籠り居れりと

●地方行政協議會　十三日内部に於て開催せられたる地方行政に關する協議會は大臣次官缺席せしにつき内部地方局長課長等の打合會に止めり

●仁川の送迎園遊會　仁川民團の主催に係る新舊統監送迎大園遊會は今十四日午後五時日本公園にて開催せらるゝ由

●李學部大臣の訓示　李學部大臣は實業學校令施行規則發布に關する方針を各道に訓令せり

●湖南鐵道の引渡　兼て韓政府にて買上げたる湖南鐵道は今般愈々土地家屋及什器等を度支部に引繼濟となりたりと云ふ

●黑鉛産出の勢趨　隆熙元年度に於ける黑鉛産額は百三十六萬九千斤に過ぎざりしが同二年に入りて千二百九萬九千三百八十斤に達し殆んど十倍に近き産出ありしが採掘を企つるもの既に六十五件に達し目下出願中に屬するもの四十餘件を算すと云ふ

●藤公退京時刻決定　伊藤公は十四日午後一時四十分特別列車にて南大門を發し二時五十分仁川着同地一泊の上十五日午前十一時三十分滿洲丸にて歸國の途に就かるゝ事に決定せり

●新舊統監演説（民團主催送迎會の席上に於ける）

十二日午後五時より日の出町第一小學校内に開催せられたる京龍民團及漢城府民會の主催に係る新舊統監送迎會の光景は昨紙報道せしが席上熊谷民長の挨拶に次で伊藤公曾禰統監の演説ありたるが左に要旨のみを摘錄すべし

伊藤公の演説

在職中は聖意のある所を奉体し且つ廟議を遵奉し極力統監としての任を盡したり或る者は余の施政に對して不滿の念を抱きしものなきに非ざらんも韓國の如き地に臨み日本國を代表して之を誘導し好成績を擧けんとすることは余に取つては頗る至難の業に屬せり而も日韓の兩國民の多くが余の施政に對し不滿足の聲を聞かざりしは余の滿足とする所なり依つて余は爰に深く諸君に向つて謝意を表する次第なり尚余は歸朝後は至尊の傍に在つて國事に盡瘁する間も及ぶ限り韓國及日本國民の利益を思ひ念々忘れざるべし庶幾くは諸君に於ても益々幸福を增進し凡ての事業に向つて勇進されんことを希望す云々

曾禰統監の演説

御禮として唯一言諸君に申し述べたきは日韓人共に健康を保たれん事を祈る次第なり尚他に一事の望むべきものあり开は一旦口に出だして仕事をせざるが如きことを謹み一旦口にせし以上は必ず遂行するやう語を換ふれば理窟を避け空論を謹み誠心誠意を以て事に當らん事を希望す云々

●滿洲銀行の經過

政府に滿洲銀行設立の内意あることは既報の如くなるが由來滿洲は幣制紊亂して挨一を見ず加ふるに土地を外にしては何等の抵當物件無く而して在留邦人には表面上土地の所有權無く僅かに租借地域に於て不完全なる地上權を有するのみに止るの狀況なれば銀行營業として危險之に如くもの無く從來滿鐵其他在滿邦人より屢々請願ありしに拘はらず政府は常に其設立を躊躇し暗に正金銀行をして一般金融を慫慂し一時を逃れたるなり然るに政府の意志を体して土地抵當に貸出を敢てしたる正金銀行は天晴れ犧牲となりて其回收頗ぶる難澁を極めたれば之れに懲りて爾來は荷爲換の外に更らに貸出を爲さず因つて當局者は日本興業銀行を動かして其任に當らしめんとせるも興銀の不承知の爲め成功せず一方在滿商人の不便は益々甚だしく遂に今期議會に對し大連有志者より銀行設立の請願書を提出し議會を通過したるのみならず中村滿鐵總裁等も勸說頻りに力むる所ありたる結果政府も茲に意を動かすに至り先づ狀況取調べの爲め去五月勝田理財局長を滿洲に派遣するに至れり而して同局長は今や其任務を了へ十一日上海を發して歸朝の途に就く筈なれば其上大藏省議を經て最後の決定を爲すべく多分金貨本位の發行權を有する臺灣銀行類似の一大銀行を設定するに至るべきかと云ふ

●郵便物配達遲延　十二日夜下の關を發せし聯絡船は風波の爲め豫定の時刻に釜山に入港する能はず依つて京城方面の郵便物は十四日一號便にて配達すべきを二號便にて配達することゝなりたり

●咸北地方の凶作　咸鏡北道にては二ヶ月以前より今日に至る迄殆んど毎日雨天若くは曇天にて普通農作物は成育惡しく富寧、會寧兩郡を除くの外は各府郡に害蟲發生し殊に麥の被害甚しきを以て此向なれば多分凶作なるべしと中井同道書記官より其筋へ電報ありたりと

●貨幣發行高週報

一銀韓國總支店に於ける七月四日より十日迄の貨幣發行高左の如し

第一銀行券總發行平均高	九、六九三、〇〇〇
内　正貨準備發行額	三、三〇二、八〇〇
保證準備發行額	六、三九〇、二〇〇
銀行券平均手許有高	七一二、九四一
銀行券市場平均流通高	八、九八〇、〇五九
硬貨發行額（七月十日現在）	四、三五三、二九〇
内　金貨二十圜	一、三五〇、〇〇〇
同　十圜	五〇〇、〇〇〇
銀貨五十錢	六九一、五〇〇
同　廿錢	七六一、五〇〇
同　十錢	四六一、五〇〇
白銅貨五錢	七八四、八五〇
青銅貨一錢	一四〇、四五五
同　五厘	六三、四八五
金貨五圜	五〇、〇〇〇

●理事官會議と水産局

十二日統監府に於て開會の理事官會議に水産事項として附議せられたるもの左の如し

一、免許漁業競願に對する處分に付意見諮詢の件

漁業法施行の結果免許漁業の如きは其有望の個處に對し團体若くは個人等數人の競願ありて其處分の如何に依り將來の公安及漁業の消長に關するもの多きを以て當局の注意を加ふべきは勿論なりと雖も尚其處分の大体に就ては豫め直接關係を有する理事官の意見を聞くの必要あるを認め其意見を諮詢す

二、韓國漁業法施行に關する注意の件

（一）免許、許可漁業の處分に付新規出願者と在來漁業者との間に於て利害の關係最も厚きものあるに依り之が措置に就て農商工部と連絡を保ち圓滿なる施行を謀られたきこと

（二）移住漁業者の經營に就ては勉めて便宜を與へ其目的を達せしむべく幇助せられたき事

（三）屆出漁業に屬する漁業者の申請は敏速に之を措置することを期し之に伴ふ鑑札交付の如きは勉て簡易に取計はれたき事

三、漁業に關係ある沿海國有未墾地は其地方に於ける漁業經營と關聯利用するの件

國有たる沿海の未墾地中現在將來の漁業上に關係を有するの地に在ては勉めて海陸を連絡して之が利用を圖るを得策と爲すに因り成るべく漁業の經營に伴ふべき方法に依る出願者に便宜を與へ且此方針を以て奬勵せられたき事

●七月上旬外國貿易

關稅局にて調査したる七月上旬の外國貿易左の如し

區別	本年分	前年同期
輸出品價	三〇九、〇七五	三七〇、八一四
輸入品價	九八二、五五七	七七四、三〇一
合計	一、二九一、六〇二	一、一四五、一一五
輸入超過	六七三、四八二	四〇六、四八七

●伊藤公奏上報告書　伊藤公歸朝の上韓國の國勢現狀に就て奏上するため過日來各部大臣及び各理事官に向ひ最近の國勢を報告すべき旨を命じたるに各部は十二日夕方迄に報告を終りたる由にて何れも最近の事情により最も簡明なる報告書を作り政治產業教育を主とし其他百般の事項を網羅し居れりと

●本山大毎社長出發　既報の如く大毎新聞社長本山彥一氏は同社記者大庭景秋氏を從へ十三日午前九時十分南大門驛發京義線を經て滿州に向ひたるが見送人は當地の同業者以外市原盛宏及び林市藏の諸氏なりき

●增遣憲兵到着す　韓國增遣憲兵下士卒百餘名は十三日御用船にて仁川港到着正午仁川發列車にて入京したり

●全州地方の挿秧　同地方の挿秧は早きものは六月十二三日頃より着手せり此等の多くは一毛作なり水田は麥の收獲未だ其半ばに達せず成熟期稍々遲れたるものゝ如し夏至當日の觀察に依れば移植を了へたるものは水田の二割五分を越へざるべしと

●蔚山海面埋立變更　蔚山日本人會の事業として蔚山海岸の一部を埋築すべき事項は這回設計を變更して再び認可を申請せり

●釜山棧橋會社近狀　釜山棧橋株式會社にては五日の重役會に於て八朱の利益配當を議決したるが尚は來る二十一日の總會に於ては格別の重要議事なきも棧橋小修繕の件を附議すべしと

●愛國婦人役員挨拶　愛國婦人會韓國支部の兒玉、三浦、香坂、小松、木島の各夫人十三日午前伊藤前統監曾禰新統監を官邸に訪問し韓國支部事務要領及び會員統計表を閱覽に供し挨拶する所ありたりと

●梅雨と干鰯業者　每日元山港に數百となく入荷ありたる干鰯は入れ場所なき故海岸に積み置きたるに梅雨の爲め大部分腐敗し蛆の出來したるために斯業者の損害も亦大なりと云ふ

●湖南學會の總會　去る十一日湖南學會にては同會定期總會を開き四十五名の出席者ありたりと

●法政新聞の發行　日本人辯護士會にては日韓民に法律の思想を注入せんがため法政新聞と稱する日文諺文新聞を發行する由

●戰病死者追弔法會　來る十六日午後二時三十分より龍山本願寺出張所に於て駐韓軍戰病死者追弔法會を執行する由

●出版物の禁止　崔永穆の審述に係る勉庵先生文集は治安に妨害ありと認められ發賣を禁止されたり

●空砲發射演習擧行　十五日午後一時より午後六時迄漢江坊附近に於て十六日は惟坊坪附近に於て空砲發射演習を擧行す可しと

●古谷秘書官送別會　統監府秘書官古谷久綱氏は今回樞密院秘書官に轉任せしに付統監府員を初め各部高等官等は十二日午後六時より花月に於て送別會を催ふせり

●元山露國領事入京　元山露國領事ミルスーク氏は十一日夜入京露國總領事館に入れり

●本田書記官の歸省　本田學部書記官は夏休みを利用し十四日朝鄉里島根縣杵築に歸省する由

●梅法學博士着京期　法學博士梅謙次郎氏は十五日東京出發十七日午後八時南大門着の由

●各道水稻挿秧

各道は先日來の降雨により何れも挿秧を開始したる模樣なるが今各地より報道したる狀況左の如し（一）全羅北道全州方面は十一日以來の驟雨によりて一般水田の水不足を補ひたるものゝ如く農民は挿秧を始めたり（二）咸鏡北道は二ヶ月前より今日に至るまで殆ど毎日雨天若しくは曇天にて普通作物の成育に就き懸念有る上富寧會寧二郡を除き各府郡に害蟲を生じ麥殊に甚だしく到底本年は凶作たるを免かれずと豫想せられ異に憂心に堪へざる次第なりと道書記官は報道せり（三）十二日木浦綿花栽培所佐藤技師の報告によれば其後大雨ありて當地方は悉皆植付けを終りたる模樣にて今後甚だしき天災なくんば本年は多分豐作たるを疑はずと（四）十二日京畿道璽川書記官よりの報告によれば管下に於いては六月上旬より移植開始後今日にては十中七八は既に無滯挿秧を終り其の遲速も全般より言へば例年に比し早き方にして其狀況は槪して良況なり

●鑛業許可　七月七日迄の鑛業許可左の如し

平安南道定州郡州内面金鑛五十六萬五千七百六十四坪張箕鉉外三名、平安北道義州郡古寧面金鑛四十九萬三千四百八坪同前、平安北道龜城郡梨峴面黑鉛三萬坪谷口與四郎、咸鏡南道永興郡長興社黑鉛二十三萬七千〇七十五坪楢井藤吉、平安南道定州郡東面金鑛五十八万七千九百九十三坪劉天涉外一名、平安北道寧邊郡泰平面金鑛十四萬二千十坪同前、平安北道博川郡々内面金鑛七十一万三千三百三十坪李柄模外三名、忠淸北道懷仁郡江外面黑鉛二十六万七千九百七十八坪水田喜一郎外一名

公人私人

▲八木辰爵（仁川郵便局長）十二日山本へ

▲柏木一男（財務官）同原金へ

▲岡本豐彥（開城居留民總代）同浦尾へ

▲白川正治（平壤實業新聞社主）同三日月へ

▲阪井勤（咸興警察署長）同上

▲井關權之助（開城參政課囑託）同上

▲藤原保太郎（駐箚憲兵隊附二等主計）二日仁川へ

▲石原半右衛門（釜山民長）歸釜

▲時尾善三郎（統監府營林廠）同日龍山へ

▲小笠原宣（水原財務官）同日歸原

▲上原辰三郎（海州警務長憲兵中佐）管區長會議に列席中の處十二日歸任

▲桐原五郎（春川同上）同上

▲小栗直治（原州同上）同上

▲立川吉太郎（開城同上）同上

近事片々

▲梨本宮殿下同妃殿下は歐洲よりの歸途京城に御立寄在らせらる由謹て御待受奉る

▲歐米の御見學を終て更に滿韓を御視察遊ざる其結果必ずや滿韓經營の發展を見む

▲伊公大久保司令官の招宴に臨で統監として在任中一回も軍と職務上の爭はせじと

▲果して然りしならば邦家の爲に大幸文武は素より車の兩輪海外經營には殊に然り

▲曾禰統監曰く大久保大將とは四十餘年の友人殊に歐洲留學中の學友也と

▲此故に余と大將との間柄は親密互に相知り合ふと希くは和衷以て功績を擧げよ

▲韓内閣更迭說傳はる而も今にも實現すべく云ふ果して完用内閣更迭を見る可きか

▲途說に依れば完用宮内府に入り朴齊純總理たるべしと嘉鎭重顯の老連入閣せんと

▲李容九亦閣班に列すべしと斯る人物を配列せる内閣は果して人心を得べきや否や

▲濟州島に久く配所の月を眺めつゝありし朴泳孝歸て樞府に入るの說は事實なるか

▲尾崎學堂復黨せんとし戶水岩下等亦說き參せんとし鶴原亦政友會の候補たらんとす

▲政友會は愈々繁昌人物拂底なりし同會も今後は豪傑の鼻突合とならん惜も斷乳し

▲伊東己代治官相候補に失敗し鬱憤を政界を騷さんと彼も亦政友會に馳せ參ずるか

▲己代治子衆と包容の雅量なきも政界の飛將たる値あり利器空しく埋沒すべからず

▲渡邊無邊近頃頗る色氣付き政友會復歸を希ふと學堂と無邊は到底終に政友會の人

▲唯一個原敬の爲に支へられし觀あり今や原敬の覺悟に依りて融和の望みは充分也

▲獨相ビユロー公辭任事實なるが如し後任は何人か小ビスマルクかウエーデル伯か

▲鐵血宰相ビ公以來の實相ビユローの辭任をカイゼルが容易くは承認させる可き也

▲錫良を彈劾したる直隸新總督端方は財政の事にて御史趙氏に彈劾さる世は廻り持

▲備前の小房村にて大蛇四才の小女を呑む噓か眞か蛇か事實ならば恐可き事蛇嘸

（日曜月曜及祭日翌日休刊） 明治四十二年七月十四日 （水曜日） 京城新報 第百六十號 （三）

……號に搭乘しア[illegible]ア號を率ひて十三日威海衛より仁川港に入港し三四日間同港に碇泊する豫定なりと

●配達出帆 午後七時四十分

●本願寺連枝巡錫

本派本願寺積德院連枝は過般渡韓の上釜山、馬山、大邱等各地を巡教せられ居りしが愈々今十四日京龍附近巡錫の爲め來京せらるゝ由今同連枝經歷の一斑を聞くに連枝は現法主の實弟にして明治三十一年一月八日得度授職、同三十七年一月六日教師となり、爾來常に同派內外の重職に就かれ日露戰役の際同派の從軍布教使として滿軍に派遣して大活動をなせし際の如き同連枝は遼東半島臨時支部長として滿洲の野に巡錫し幾百の從軍布教使を指揮督勵すると共に自ら彈丸雨注の間を馳驅し各軍の樹間に奔走せられ更に憚ることなく當時衣を着たる武將として陣中に名を轟かしたる程なりき、轉て平和克復と共に歸山、教學參議部長として一派教學の振興に熱心し更に清國及臺灣開教總監として海外開教に盡す所ありしが、四十年九月韓國の事項調査の爲め南洋諸島に漫遊し東印度、馬來半島、暹羅、ヒリッピン、安南、交趾、支那等の附近殆ど足跡至らざる所なく大に得る所あり、再來南洋各殖民地及對清經營に就ては多大の趣味を以て常に觀察を怠らずと、四十一年六月廿三日更に一派最高の重職たる執行長として內外の事務を綜攬し四十二年二月韓國開教總監を兼任し今回は一面法主代理とし一面開教總監として當地に巡錫せらるゝことゝなりたるものにして連枝の巡教に依り今後同派の韓國開教事業は第二期の畫策に着手すべしと因に連枝は當地の巡教を終へ更に安東縣、長春、奉天、哈爾賓、浦鹽等に巡錫し夫より北海道に出で來月中旬歸山の筈なりと尙ほ龍山及び當地に於ける動靜左の如し

▲龍山
△十四日 歸敬式△十五日 婦人會教諭△十六日 追弔會

▲京城
△十五日 午前十一時龍山出發、同十二時南大門通三好和三郎氏宅にて晝食引續き世話係に面會、午後二時三十分歸敬式（本願寺にて）、同三時三十分親諭（同上）、夕歡迎會に出席、晚本町四丁目山口太兵衛氏宅投宿
△十六日 午前中韓人信徒に親諭、午後二時追弔會（龍山本願寺にて親諭に付出席）午後五時半山口邸歸館、晚世話係往訪（山口氏宅）
△十七日 午前九時十分南大門驛出發

●藝妓落籍の流行

▲仁川老紳士連の道樂 仁川にて韓國第一の不景氣地と稱せらるゝ仁川には不景氣挽回策とか何んとか色々な奇行的目論見も立てゝは見たものゝ根から當らぬのみならず却つて意外な穴を生じ遂に富田民長の自殺狂言で一幕切り上げたを幸ひ近來は同地經濟界の牛耳を執れる老紳士連にして盛んに藝妓を落籍し恰かも競爭せるが如く是れが一種の流行物となりたるやの感あり今重なる例を擧ぐればカク君の駒助、田佐クンの小富士杯は既に世評に上りたるが近く兵須百三十が鱗の清子を落籍したる又秋田クンが同樓の笑子を落籍さすとかせんとか云へる樣子なるが其れが何れも五十以上の白髮頭で相手の藝妓は揃ひも揃つて十臺と云へば慥かに半長右衛門以上で富田前民長が傳染であるまい差當り新桂川と云ふ好劇題を作るに至るべし併し田中宮相對小林孝子よりは遙かに差が少ないから餘り笑つた者でもないハテサテ世には色々な事が流行するものかな

紳士の遊興振

▲高橋章之助君 君は群馬縣出身で明法卒業後辯護士となり郷里群馬縣より推されて下院に椅子を有せる事前後數年然かも當時の松方內閣は民黨議員反抗の熾んなるを恐れ無暗に干渉を試みた爲め議場の騷擾は常に絕へなかつた君當時民黨にも非ず又吏黨にも非ず超然として中立を守り常に民吏衝突の起らぬ樣緩和を計り立法に貢獻する處少なからざりしも其後政界の益々混濁に趣くや君到底之れに堪へずとなし飄然渡韓し爾來當地に於て辯護士の仕事に從事したのである、君の眼は成田屋張で加ふるに黑漆々たる長髯を蓄へ一見加波山暴徒の張本人とも見へる併し交際は中々の粹人で酒は多く呑まねど附合なれば敢て盃を辭する事なく樓上に於てイザと言へば直ちに太棹を命じ得意の箱根靈現記、太十等を繰出する併し君に聘ばるゝ某藝妓の言ふ處に依れば高橋さんの語り物中上乘なるは御所櫻で其中にても『擦つ縺れつ相生の松と松との若綠』の邊り取分け面白く之れを聽いては新造も年增もウットリとなると、此調子で法廷に立たるゝ君が如何なる辯論を爲すかは眞から思ひやらるゝのである……次は兒玉統監府書記官

●大雨と被害二件

▲咸鏡南道にては十一日曉より大雨あり夜に入りて咸興市街に溢水し浸水家屋日本人數十韓人數百に及びたるが十二日曉に至り雨漸く歇みたるも被害頗る甚だしく目下調查中▲慶尚南道に於ては十一日夜來の大雨の爲め東萊釜山鎭及び東萊蔚山間の交通杜絕し女二行衞不明となり金海にては壓死女一溺死男一蔚山にては增水八尺浸水田畑頗る多く此亦目下被害高調查中なりと云ふ

●金浦郡の海賊

仁川署管內金浦郡月串面方面より豐德郡栗齋里方面の沖合に海賊らしきもの數名銃器を以て襲來したりとの報に接し金浦駐在所松村巡査は韓巡査三名を率ひて追捕に向ひ又憲兵隊よりは憲兵一名及び補助員二名を派し討伐に向はしめたるが詳細は後報を俟つて報ずべし

●壽拍子の痛事

新町遊廓松榮樓抱へ壽事本名渡邊すが（三十）は去る九日許可を受けて外出せしも指定地以外の大和町二丁目に立寄りしは不都合なりとて昨日南部署にて科料一圓に處せらる

●美當一調を聽く（下）

美當の浪花節が趣きを異にして居る如く三味線も又普通の浪花節を彈く三味よりは遙かに高調子で撥捌きも鮮かに面白き點が澤山ある是れも慥かに一頭地を拔いて居る一座に加はれる筑前琵琶師三好數馬と云へるは僅かに二十四歲の靑年で中學時代から非常に琵琶が好きで學業の餘暇を以て道樂半分に習ひしが遂に今日の如く專門家たるに至つたのであるそうだ、聲は少しく小さき感あるも濁りなき澄み切つた美音で悠揚迫らざる唄方、琵琶の捻ぢ目も又鮮かである只近來新たに流行する如き派手な唄ひ方でなく極く地味で幾分か陰氣な點がある爲め大向ふは餘り受けぬ樣な模樣あるも斯界大家たるの價値は充分に認められる、兎に角美當の講談は世間幾多の浪花節語りとは全く趣きを異にし其壯重なる句調には時に嚴然襟を正さしめ或は勇士の悲壯なる最後を聽きては眞に斷腸の思ひあらしむ評者は武士道鼓吹の爲め將た社會一部の敎育上大に之を歡迎すると共に未知の人に對しては切に其聽講を勸むるのである（もの字）

去る五日中檢の披露劇に加賀見山の尾上に扮し意外の成功を爲たる花月樓有數の美形花奴



●特別郷の檢梅

新町遊廓にては去九日檢梅の結果前期來引續き病院へ居續けせしは春季樓の笑助、夏子、小櫻第一樓の緋櫻同支店の園枝清月樓の紫南山樓の衣重の七拍子にして內小櫻を除くの外は悉く花柳病に冒されたるものなりと

●泥濘中の組打ち

仁川京町派出所附近にて一昨夜午後十二時過ぎ龍洞居住の李書房及び金漢秀と云ふは酩酊の結果口論を追つ始め果ては泥濘中に組んづ轉ろんづ格鬪を始めたれは警官出張鎭撫の上說諭を加ふ

●財布の拾ひ物

仁川港新町二丁目俵[illegible]ると云ふは同町道路にて四十八錢及び新發と刻印せる木印入の財布を拾得し最寄警察に屆け出づ

●警報

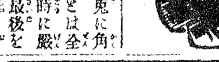
風强かるべし低氣壓は山東省にあり七百五十ミリメートルを示し東北東に進まんとす韓國全部を警戒す（十三日午前十時四十分仁川觀測所發）

演藝

▲五雲會 第三十二回能會は來る十八日第三日曜當日午後一時より和城臺本願寺別院にて開會其番組如左 通盛、黑塚、定家、女郎花、加茂物狂、三井寺、鐵輪伏會我▲永樂亭 吉川家辰丸一座の浪花節は今十四日より長谷川豐廣を差加へる由▲新派 伊東文夫は來月一日初日にて釜山座に蓋開けする筈なるが題物の重なるは白虎隊、潮、細川血達磨等なりと▲歌舞伎座 美當一調は非常なる好人氣なるが同座打揚げ後は仁川に開演中なる愛澤一座乘込む由▲田宮貞雄等の一座は開城より平壤に乘込みデモ俳小喜多村五郎も滿洲を追拂はれ同地に乘込む由▲京城座 梅花美團本日は昨日と同じく『鷲の羽風』にして役割左の如し 山岸武夫（橋本）山岸秀夫（青山）藤本少佐（稻葉）加藤中尉（橫山）支那人李文孫（橫田）露人マコラン（松村）遊人熊三（郡）佐久間曹長（與部）中西大尉（吉野）山岸多門（潮川）靜江（東）

●大日本人名辭書

東京市京橋區彌左衛門町經濟雜誌社に於て編輯せる大日本人名辭書は既に六版を重ねたるが七月末日までの申込者は特別割引を以て定價十五圓を特に九圓に割引販賣すると云ふ



平民文庫

▲京城居留民……官民合同で一つ大きな公開堂を南山に建築したら宜からう、雨が降つたからとて小學校を園遊會場に充つるなぞの不体裁のない樣に願ひたいからだ、何うか書齋や佛閣へは葷酒を入れぬのが宜いと僕は固く信ずるものだ（親の子）▲はの字君對呵々子の論戰は何うなつたのか屁古垂れずに[illegible]玉へな（南山生）▲少し位い饑饉でも宜い濟々と晴らさして下さい然うして下されば立派なお宮を建てゝ上げます、切望切望（への字）▲ト云つて稻荷樣を欺す心算だらうが良くない事だ（小僧）▲溝淩ひは何うしても實行して吳れないので困る下水が流れないで私の宅なぞは土間に三寸も水が來る困つて終ふ衛生も絲瓜もあるものか腹が立つ（溫突仕人）▲佐倉宗五郎は面白いますく面白いけれどもモウ終ひですさか殘念だナア（愛讀者）▲第一銀行の定礎式に招ばれた藝妓や仲居はヅブ濡れでイヤ嘲すまいここか藝妓は衣裳が親方持ちのもあるこから未だしも仲居に至つては泣くにも泣かず溜め息つく／＼、ア、厭だこんな事なら死んだがましだ（安い命）▲本町四丁目の菓子屋の隣りの硝子屋は不心切極る僕が過日硝子を買に行た處其位の事なら出來ませんと云ひた其座で投てやりたかつたけれど耐て居つた此度からは用捨せんぞ覺ねて居ろコンツクショー（佐賀縣人）▲今日此の頃の樣な天氣模樣で困る商賣は行商人は別として煎餅屋菓子屋飲食店塗物屋等で喜ぶのは醫者と藥屋位ひのものだらう（郵便脚夫）▲往來で日韓人の裸体は八釜しく制止せられるが傍を見ると清國人が裸体で其說諭を見物して居ると云ふ奇觀を見受けるが斯う云ふ些細のことに迄治外法權があつては堪らん己の國に己の法律が行はれないとは情けない（韓巡査）

㊍天氣豫報（自十三日午後六時至十四日午後六時）

南の風曇後晴

十三日（華氏） 最高溫度 七四、三 最低溫度 六八、三